

「奈良県宿泊統計調査（2020年1月～12月）」のポイント

「奈良県宿泊統計調査」は、奈良県観光局が県内の全てのホテル・旅館・簡易宿所を対象に毎年実施している調査です。新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の影響が顕在化した2020年の結果が、2021年11月に公表されましたので、以下に内容のポイントをご紹介します。

1. 調査の概要

全国を対象とした観光庁「宿泊旅行統計調査」では従業員数10人未満の事業所についてサンプル調査としているが、本調査では規模にかかわらず全ての施設を対象としている。

調査時期	四半期毎（合計4回）
調査対象	奈良県内の全てのホテル・旅館・簡易宿所（旅館業法に基づく営業許可施設）
回収率	60.0%（502施設） （第4回調査（10月～12月）の結果）
調査方式	郵送法

2. エリア区分

本調査では県内を以下の6つのエリアに分け、エリア別の状況を月別に公表している。

A	奈良市、生駒市、天理市、大和郡山市、香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、斑鳩町、安堵町、田原本町、広陵町、山添村
B	大和高田市、橿原市、葛城市、桜井市、御所市、明日香村
C	宇陀市、曾爾村、御杖村、東吉野村
D	吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村
E	五條市、野迫川村、十津川村
F	川上村、上北山村、下北山村

※ 対象宿泊施設無し：河合町、川西町、三宅町、高取町

3. 調査結果のポイント（抜粋）

（1）延べ宿泊者数

①奈良県内全体の動向（図表1）

2020年の奈良県内宿泊者数は143.3万人で、前年比49.2%の減少となった。

図表1：業態別・月別延べ宿泊者数と対前年増減率

（人、％）

業態別	2020年												合計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
宿泊者数	旅館	32,498	24,673	21,416	9,865	7,598	13,091	21,231	37,633	42,155	52,335	60,991	37,776	361,262
	ホテル	97,794	75,359	60,335	28,184	28,924	44,229	65,727	80,827	96,634	96,129	112,237	84,801	871,180
	簡易宿所	7,074	7,942	7,070	3,150	1,864	3,167	7,252	14,213	11,962	10,396	13,116	8,793	95,999
	キャンプ場	1,145	1,120	4,710	2,992	3,475	4,584	11,241	39,340	16,331	8,271	6,782	4,548	104,539
合計	138,511	109,094	93,531	44,191	41,861	65,071	105,451	172,013	167,082	167,131	193,126	135,918	1,432,980	
増減率	旅館	▲3.7	▲24.2	▲63.3	▲87.1	▲92.0	▲80.9	▲70.5	▲58.3	▲35.8	▲23.7	▲14.2	▲21.3	▲53.7
	ホテル	▲3.1	▲24.1	▲58.3	▲81.6	▲80.7	▲66.4	▲51.8	▲50.4	▲24.0	▲34.6	▲27.8	▲31.3	▲46.6
	簡易宿所	▲37.6	▲33.0	▲73.1	▲89.9	▲94.9	▲87.5	▲68.4	▲64.1	▲47.4	▲48.6	▲40.7	▲37.4	▲66.2
	キャンプ場	15.2	49.5	133.5	▲70.2	▲77.1	▲41.1	▲36.1	▲5.9	15.7	16.2	15.3	44.3	▲17.3
合計	▲5.7	▲24.5	▲59.6	▲83.7	▲85.9	▲72.1	▲57.6	▲48.6	▲27.2	▲31.2	▲24.1	▲27.9	▲49.2	

11月上旬まで宿泊者数は回復基調で推移したが、その後の感染再拡大、さらには11月下旬から「GoTo トラベル事業」で一部地域居住者の利用自粛要請や、12月下旬以降の全国一斉停止等が影響し、宿泊者数の回復に急ブレーキがかかった。

②エリア別の延べ宿泊者数の動向（図表2）

【A エリア】

コロナ前は県内インバウンドの9割が宿泊しており、海外からの入国規制等の影響により大幅に減少。特に外国人に人気の高かった簡易宿所の減少が大きかった。

【B エリア】

「GoTo トラベル事業」ではホテルに人気が集まる一方で、旅館、簡易宿所は大幅な減少となった。

【C エリア】

近年増加していた外国人宿泊客は減少したが、国、県、市町村の宿泊割引キャンペーン事業の効果で、10月～12月は増加した。

【D エリア】

観桜期や夏合宿の宿泊者数は大幅に減少したが、「いまなら。キャンペーン」では吉野山や洞川温泉が県民から宿泊先として多く選ばれた。

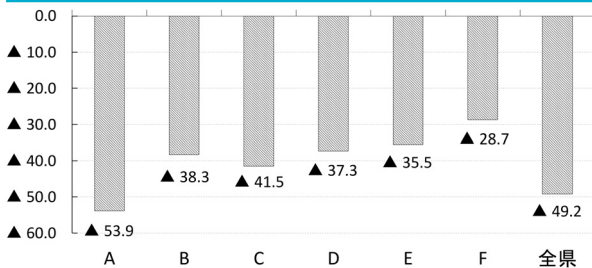
【E エリア】

公共工事や電力関係の仕事での連泊が安定的に見られ、コロナの影響は相対的に小さかったが、閑空利用のインバウンドの宿泊需要はなくなった。

【F エリア】

アウトドア志向の宿泊客が多いエリアで、コロナの影響は相対的に小さかった。

(%) 図表2：エリア別宿泊者数の対前年増減率（2019年⇒2020年）



(2) 客室稼働率（図表3）

緊急事態宣言が発出された4月、5月には、イ

ンバウンドの多かったAエリア・Bエリアのホテルで45～65ポイント程度の低下となった。簡易宿所は10%を割り込んだ。6月以降は徐々に回復に転じ、前年比では低下しているものの、低下幅は縮小傾向で推移した（前年比は図表不掲載）。

図表3：エリア別・業態別客室稼働率 (%)

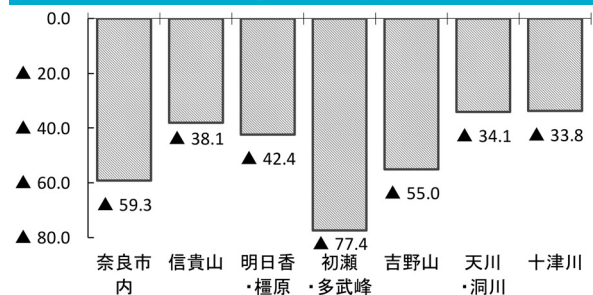
エリア	業態別	2020年													
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年比	
A	旅館	33.6	26.3	21.7	8.3	8.2	14.0	17.4	23.4	34.6	40.2	48.3	33.4	26.8	
	ホテル	64.3	59.4	41.9	24.7	30.3	30.2	35.6	37.0	43.6	49.0	59.9	45.1	44.2	
	簡易宿所	26.9	33.3	28.6	2.7	1.9	4.6	9.5	11.6	17.9	14.8	20.8	15.3	16.0	
B	旅館	16.1	14.8	12.4	6.5	4.8	8.2	10.9	18.0	38.1	26.6	31.4	17.1	18.3	
	ホテル	43.3	50.2	40.0	21.6	20.5	32.8	37.5	41.2	50.7	66.8	71.5	54.9	44.5	
	簡易宿所	13.8	14.2	9.4	9.2	8.6	9.1	9.3	13.4	15.9	10.0	14.5	8.7	11.7	
C	旅館	17.1	21.8	20.2	2.0	1.8	0.9	10.3	17.8	26.6	34.5	46.3	24.2	23.4	
	ホテル	6.5	5.5	7.4	4.2	2.4	5.8	11.9	26.1	22.9	20.7	29.3	15.3	13.3	
	キャンピング	2.7	2.8	6.7	5.6	23.6	8.3	9.5	27.6	16.4	22.4	23.3	21.4	14.6	
D	旅館	20.1	20.9	23.8	14.4	5.9	12.7	21.4	35.7	38.3	32.3	33.2	21.2	24.8	
	ホテル	6.7	8.0	8.5	6.5	2.2	6.0	11.3	25.5	19.0	17.8	16.0	10.6	12.5	
	キャンピング	0.4	0.4	5.6	4.9	3.4	3.4	10.3	32.2	16.3	7.9	5.4	2.8	12.1	
E	旅館	31.4	35.0	33.5	29.1	29.3	26.0	32.0	42.6	39.2	31.3	39.0	26.1	33.3	
	簡易宿所	9.2	12.9	15.9	9.8	7.4	8.8	10.8	22.5	23.4	21.3	26.9	33.8	17.5	
	キャンピング	*	*	*	10.7	5.8	9.6	9.3	52.1	21.0	7.7	10.4	*	17.7	
F	旅館	36.7	32.4	29.0	39.5	28.0	22.8	24.7	46.4	41.8	46.0	55.7	34.2	37.3	
	簡易宿所	7.2	6.3	12.7	4.0	3.3	10.8	37.2	49.1	32.6	23.6	21.0	17.8	18.4	
	キャンピング	10.4	9.9	17.2	7.0	*	7.8	11.1	32.6	13.9	10.5	10.7	13.7	13.5	
県全体	旅館	28.3	25.2	22.7	12.5	10.4	15.3	19.7	28.6	36.1	36.4	43.3	28.4	26.8	
	ホテル	59.7	57.3	41.5	24.0	27.9	30.7	36.1	37.9	45.0	52.1	61.9	46.8	44.2	
	簡易宿所	18.2	21.9	19.5	4.8	3.2	6.0	10.9	16.9	19.1	16.0	20.3	16.1	15.1	
県全体合計		45.2	43.1	33.1	19.0	21.4	23.4	27.2	32.8	37.9	42.3	50.7	38.4	35.4	

(3) 主要観光地別延べ宿泊者数（図表4）

インバウンド減少の影響を大きく受けた「奈良市内」、教育旅行の影響が大きい「初瀬・多武峰」、春の桜の時期における宿泊需要が大きく減退した「吉野山」の減少が特に大きかった。

「奈良市内」は、県内で「GoTo トラベル事業」等の恩恵を最も受けたが、インバウンドの減少をカバーすることはできなかった。「天川・洞川」は「いまなら。キャンペーン」や夏場におけるキャンプ場の集客効果で、減少幅は小さくなった。

(%) 図表4：主要観光地別延べ宿泊者数の対前年増減率（2019年⇒2020年）



宿泊業は域内調達・域外販売の割合が相対的に高く、また関連する産業の裾野も広いことから、宿泊者数の増減は地域経済に大きな影響を及ぼす。ポストコロナにおける持続可能な観光施策を産官学が連携して検討していくことが、地域活性化を目指す上で不可欠な取組みとなるだろう。

(秋山利隆)